

令和元年度

企業力強化視察・研修

報告書

R元年10月24日(木)～26日(土)

伊勢・高山

鹿児島木材産業協同組合

## 企業力強化視察・研修(伊勢・高山)報告書

今年度の視察・研修は、下記のとおり10月24日(木)から26日(土)にかけて伊勢・高山において実施いたしました。参加者は24名であり、ご夫婦も7組参加していただくなど親睦を図ることができました。

今回は、伊勢神宮において日本古来の建築様式「唯一神明造」を学ぶとともに、宮域林と呼ばれる森林の状況等について視察研修を行いました。また、明治村においては、木造三階建ての東松家住宅や木造総二階建ての西郷従道邸、世界遺産「白川郷」においては、昔ながらの建築様式「合掌造り」などを視察することができました。

また、飛騨の匠の技をあつめた高山祭の屋台や地元の野菜、漬物、民芸品等を販売する宮川朝市など地元の歴史や地域活性化策を視察研修しました。

来年度も多くの組合員がご参加できるような視察・研修計画を考えてまいります。

### 日程表

日程	スケジュール	宿泊地
1日目 (10/24) 木	9:20 ANA3720 鹿児島空港 → → 10:35 中部国際空港 → → 14:15~15:45 伊勢神宮 航空機 → → 15:50~16:50 おかげ横丁 → → 17:40 鳥羽市内(泊り)	戸田屋
2日目 (10/25) 金	8:30 ホテル → → 11:15~13:20 博物館明治村 → → 16:20~17:00 高山祭屋台会館 → → 17:10 高山市内(泊り)	高山グリーンホテル
3日目 (10/26) 土	8:00 ホテル → → 8:10~10:10 宮川朝市 → → 11:10~13:30 白川郷 → → 18:25 ANA3727 19:45 中部国際空港 → → 鹿児島空港 (昼食含む) 航空機	

※ 航空機以外は、専用バス使用

### 視察・研修

#### ○ 伊勢神宮

伊勢神宮は、内宮(皇大神宮)と外宮(豊受大神宮)をはじめ125社から成る神宮で、125社のうち内宮・外宮と、両宮と関わりの深い14の別宮では20年に1度、隣の敷地にそのままの姿で社殿を建て替え、ご神体を遷す式年遷宮が行われる。社殿の建築様式は、唯一神明造と呼ばれ、日本古来の建築様式を伝え、ヒノキの素木を用い、切妻、平入の高床式の穀倉の形式から宮殿形式に発展した。

また、神宮は、宮域林と呼ばれる森林約5,500ヘクタールを有し、大正12年から将来の遷宮を見据えて、御造営用材の自給自足を目標として、「神宮森林経営計画」を策定し、200年生の檜の育成に取り組んでいる。

ただし、案内したガイドによると、植栽した檜が鹿の被害を受け育成に苦労しているとのこと。また、20年に一度式年遷宮が行われる理由は、天武天皇が定めたからとか、用材の耐用年数が20年であるとか、次の世代(弟子)に神宝作りの技を伝承するための年月が20年であるなど諸説あるが明確な理由は不明とのこと。

また、伊勢神宮内宮の門前町の中ほどに、おかげ横丁と呼ばれる通りがあり、伊勢路の代表的な建築物が移築・再現され、地元の特産品が販売されている。



内宮(神大神宮)



神宮内を散策



神宮で収穫された米を納める御稻御倉



おかげ横丁

○ 博物館明治村

愛知県犬山市にある野外博物館で明治時代をコンセプトとしたテーマパーク。面積は約100ヘクタールと広大で、明治時代の建造物等67件を移築して公開し、また明治時代の歴史的資料も収集し、社会文化の向上に寄与することを目的としている。

① 東松家住宅

東松家は明治20年代後半までは油屋を生業とし、その後昭和の初めまでは金融業を営んでいた豪商。塗屋造という江戸時代以来の伝統工法で建築されたこの建物は、江戸末期平屋であったものが、再三増改築を繰り返し、明治34年には3階以上を増築したらしい。2階3階は住まいのための部分であるが、吹き抜けに面して茶室が設けられている。茶室には露地に見立てた廊下、待合、原そう床風の床框や墨蹟窓などが備えられている。



東松家正面



1階では食事が行われていた模様



2階部分



茶室入口

## ② 西郷従道邸

西郷隆盛の弟西郷従道が、東京上目黒の自宅内に建築した、木造総2階建銅板葺きの洋館で、フランス人建築家レスカスの設計と考えられている。従道は維新政府の中枢にいた人物で、在日外交官との接触も多く、接客の場として設けたものである。



西郷従道邸全景



玄関入口周辺

## ○ 高山祭屋台会館

飛騨の国は、古くから大和朝廷へ税の代わりに匠を毎年送り出し、奈良の宮殿やお寺の建築に従事してその腕をふるった。また、茶人殿様金森氏の城下町として栄えた高山は、1692年幕府の直轄地となると、それまでの上方好みの文化に加えて江戸の文化が入り込んできて、この山深い飛騨の地で見事にミックスされて栄えた。

高山祭の屋台の特徴は、均衡のとれた優雅な外形とすみずみにまで行きわたった細やかな気配りで、木工・塗り・彫刻・金具など最高のかたちを作り出そうとしたところにある。

しかし、屋台は年に1度の祭礼日にしか曳き出されないことから、1年を通して屋台を見れるようにするため、当会館が建設された。高山祭は、春祭(4月14、15日)と秋祭(10月9、10日)の2回行われる。



展示された屋台



視察状況



会館がある飛騨高山桜山八幡宮

○ 飛騨高山の朝市

飛騨高山の朝市は、江戸時代から、米市、桑市、花市などの市として発達し、明治の中頃から農家の奥さんたちによって野菜が並べられるようになり、朝市と呼ばれるようになった。朝市は、陣屋前広場の陣屋前朝市と宮川沿いの宮川朝市の2か所があり、日本3大朝市の一つと言われている。

新鮮な野菜、果物、漬物、味噌、民芸品等地域の特産品が展示販売されている。



○ 世界遺産白川郷

白川郷は、1976年に重要伝統的建造物群保存地区として選定、1995年にはユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録された。白川郷の荻町地区は、今も実生活の場として使われている。

和田家は、江戸時代中期に建てられ300年以上の歴史を誇る荻町合掌集落の中でも最大規模で、国の重要文化財に指定されている。展示部分以外のスペースで現在も和田さんご一家が住まわれている。



和田家住宅



1階部分



3階部分では養蚕が行われていた。



和田家側面



屋敷会場 基太の庄

○ 懇親会及び食事状況



1日目 戸田屋



柴立理事長あいさつ



米盛副理事長乾杯のあいさつ



奥副理事長締めあいさつ



2日目高山グリーンホテル柴立理事長あいさつ



奥副理事長乾杯のあいさつ



懇親会の状況



米盛副理事長締めあいさつ



名阪関ドライブインでの昼食



基太の庄での昼食



鹿児島空港での解散式。皆様ご苦労様でした。